

■令和5年度 認知症地域支援推進員の活動

●目標

これまでの取組みを振り返り、次期計画（第10次すこやか長寿プラン21）の策定に向けて取組の方向性を明らかにする。

●具体的な活動内容

	目標	具体的活動
①	認知症当事者の居場所づくりの検討	●あしやの会(認知症当事者の会)の開催継続 ●認知症当事者以外も含めた拠点づくり
②	認知症の人への支援体制構築に向けた関係機関との連携会議の開催	●医療関係者との連携構築 ●若年性認知症の方の支援
③	認知症に関する正しい知識の普及啓発	●アルツハイマーデーイベント ●ステップアップ講座開催

<計画>

① 認知症当事者の居場所づくりの検討 ～あしやの会の活動支援等～

【現況】

認知症の人やその家族が気軽に集える居場所が、市内に少ない→定期的にあしやの会(当事者の会)を開催

【課題と目標】

あしやの会に来られる当事者が少ない。



当事者の把握と会の啓発、定期開催を行い、認知症当事者の居場所づくりに発展させる。

【対象者】

認知症の当事者と家族

【取組体制】

担当:潮見

【具体的な取り組みとスケジュール】

奇数月の第3金曜日(年間計5回)

去年は福祉センターで開催していたが、出張型も検討中。



<活動報告>

① 認知症当事者の居場所づくりの検討 ～あしやの会の活動支援等～

【活動期間】

2023年5月～2024年3月
奇数月の第3金曜日に開催

【参加人数】

開催月によって、バラつきあり。
当事者が2～3名
ご家族が5～6名（ご家族のみの参加もある）
専門職など関係者が7～8名

【結果・課題】

参加をしてくれる方々は定着をして来ているも、新たに参加して頂ける方は、なかなか来られない。

地域にチラシで情報を発信するも、「私は、大丈夫。」と認知症を他人事に捉えている方はいるので、認知症に対する啓発活動の継続は必要である。

【取り組み内容】

令和4年度は、当事者のご家族で分かれて日頃の悩み等を話す場になった。



令和5年度は、イベントや地域へ出よう(出張型)と考え実施。出張型については、3月実施予定にしている。

イベントは、絵本の読み聞かせ・オカリナ演奏などを企画し、実施した。



<計画 精道・潮見圏域>

① 認知症当事者の居場所づくりの検討 ～拠点カフェの開催支援等～

【現況】

オレンジカフェの開催支援として、R4年度に認知症疾患医療センターの相談員を招き、イベントを行った。また、認知症カフェの啓発を各包括と連携しながら行ってきた。



【課題と目標】

- 現在のオレンジカフェの啓発を引き続き行い、地域の居場所としてたくさんの方に利用してもらえるようにする。
- 潮見圏域においても認知症の方が気軽に集える居場所を作る。

【対象者】

芦屋市民

【取組体制】

オレンジカフェ 潮見・精道
つなぐカフェ(仮) 潮見

【スケジュール】

- オレンジカフェ 10月イベント企画
オレンジカフェ開催支援(随時)
⇒イベント開催(11/22)
- つなぐカフェ 8月より準備開始
10月～定期開催実施を目指す

【具体的な取組み】

- 10月のオレンジカフェイベント企画を認知症疾患医療センターと調整
- 潮見圏域での居場所づくり。
オイルマッサージ等ボランティアの協力を得ながら、定期開催して行く。



<活動報告 潮見圏域>

① 認知症当事者の居場所づくりの検討 ～拠点カフェの開催支援等～

【活動期間】

2023年10月～
毎月第4木曜日開催



【取り組み内容】

潮見圏域で認知症当事者が集える場がないので、定期的
に集える場として「つなぐカ
フェ」を開催する。



【参加人数】

20人程度。(月によってバラつきあり)

【結果・課題】

開催している回数は少ないが、毎回来てく
れる方もいる。
集える場としての目的は、達成できている。
月1回とはいえスタッフだけでは人手が足
りない。地域の方々にボランティア活動と
して取り組んで欲しい。
今後、認知症ステップアップ講座を通して、
見つけていく必要がある。

1回目は認知症疾患医療セン
ターの相談員を招いてイベン
トを開催。

その後は、絵本読み聞かせや
認知症当事者の方が所属し
ているグループの演奏会等を
企画・実施する。
気候の良い時には、庭へ出て
茶話会を楽しんでいる。



<計画 西山手・東山手圏域>

① 認知症当事者の居場所づくりの検討 ～拠点カフェの開催支援等～

【現況】

『さくらカフェ@ふらっと』を毎週土曜日PM開催中。
認知症がある方もない方も、ひとり一役さんや学生さん達と一緒に運営を考え、多世代の繋がりができる居場所として活動中！

【課題と目標】

課題:参加者は高齢の方が多く、介護者の世代や子ども世代の関わりが少ない…。
また、認知症当事者も参加は少なめ…。

→今年度の目標

若い世代へ働きかけ、若い世代の参加者を増やそう！
認知症の理解を深めて当事者や家族が安心して参加できる居場所に！

【対象者】

介護者世代や
アクティブシニア世代
認知症のある方



【取組体制】

・西山手・東山手の山手地域の支援センターを中心に認知症疾患医療センターなどの関係機関との協働体制



【具体的な取組みとスケジュール】

- ・若い世代、予防世代への働きかけ
 - ・当事者・当事者家族への参加の呼びかけ
- 【1】「あしや認知症 ちよっと聞いてみよう」
5/13 :「認知症の気づきと早期受診」
10/14:「予防世代に必要な知識と若年性認知症」
2/10 :内容未定
- 【2】「プチ夏祭りで多世代交流」withさくらカフェ
8/19

<活動報告 西山手・東山手圏域>

① 認知症当事者の居場所づくりの検討 ～拠点カフェの開催支援等～

【R5年度 目標】

若い世代へ働きかけ、若い世代の参加者を増やそう！
認知症の理解を深めて当事者や家族が安心して参加
できる居場所に！

【R5年度 活動実績】

- ・ 毎週土曜日PM開催
 - ・ 延べ参加人数 516名 (R5.12末)
- ふらっと利用の親子や若い世代が参加されるようになり、年齢層の広がりが実感できる1年となった。



甲南高校生による「熱中症講座」



介護相談カフェ
withあしや聖徳園



あしや認知症
ちょっと聞いてみよう(相談会)



ナルクさんによるオカリナ演奏会



毎年恒例！
アットマンズさんのXmasカフェ



【R5年度 具体的な取り組み内容】

- 【1】「あしや認知症 ちょっと聞いてみよう」
(認知症疾患医療センター/西山手C 協働)
- ・ 5/13:「認知症の気づきと早期受診」
 - ・ 10/14:「予防世代に必要な知識と若年性認知症」
 - ・ 2/10:「MCIについて」



- 【2】「プチ夏祭りで多世代交流」withさくらカフェ



マジックショー!!



【 課題/R6年度目標！ 】

- ・ 居場所の周知は出来たが「認知症」の幅広い世代への周知がやや不足している。

目標

- ① 我が事としての認知症の理解がすすむ
- ② 地域での多世代交流ができ新たな繋がりができる

<計画>

② 認知症の人への支援体制構築に向けた 関係機関との連携会議の開催 ～関係機関との連携会議の開催～

【現況】

- 認知症の人のうちでも特に、若年性認知症の人への支援が多方面にわたるためスムーズに行うことが難しい。
- 医療機関にどの程度若年性認知症の人が受診しているのか把握できていない。

【課題と目標】

医療との顔の見える関係づくりを行い認知症関連の取り組みをスムーズにする。

【対象者】

医療機関・包括・認知症支援推進員等

【取組体制】

西山手

【取組体制】

兵庫医大との事例検討

【スケジュール】

7月	東山手	事例検討会
9月	精道	//
12月	潮見	//
3月	西山手	//

【具体的な取組み】

- 兵庫医大との事例検討の継続実施
- 医療機関との意見交換会の実施検討
- ほっとナビ、若年性認知症パンフレット等の関係機関への配布

<活動報告>

② 認知症の人への支援体制構築に向けた 関係機関との連携会議の開催 ～関係機関との連携会議の開催～

【具体的な取組み】

●兵庫医大との事例検討の継続実施

⇒4センター実施(参加者:各回20名程度)

7/19:東山手 9/27:精道 12/27:潮見 2/7:西山手

●医療機関との意見交換の場の設定

⇒どのような場が良いのか検討中

【課題:サポート医との関わりをどう深めていくか】

●ほっとナビ、若年性認知症パンフレット等の関係機関への配布

⇒医療機関へ郵送やフィールドワークによる配布

【課題:リーフレットの記載内容の見直し、関係機関との意見交換など】

<計画>

② 認知症の人への支援体制構築に向けた 関係機関との連携会議の開催

～『芦屋市若年性認知症ネットワーク会議』の立ち上げに向けて～

【現況】

- ・R4年度に関係機関が集まりネットワークの構築や支援の質の向上を目的に何が出来るかを検討
- 『芦屋市若年性認知症ネットワーク会議』をツールとして支援する「仕組み」の策定を目指すことに…

【課題と目標】

・課題:

- 若年性認知症の方への支援が多方面にわたりスムーズにいかない
- 支援機関の連携する仕組み(うつわ)がない

↓

・目標:

- 若年性認知症ネットワーク会議が立ち上がり、多機関協働での支援の仕組みと連携が促進される

【会議の機能、連携機関と取り組み体制】

・会議の機能

- 1.個別支援会議(都度開催)
チーム体制で支援ができる体制を構築
- 2.システム検討会議(年2回程度)
構成機関の連携の構築と促進、社会課題の抽出、社会資源の創出に関する協議・検討



【具体的な取り組みとスケジュール】

1.芦屋市若年性ネットワーク会議の開催

- ・R5秋頃を目途にネットワーク会議にて個別支援会議の開催方法について協議・決定
- ・R5年度内に個別支援会議の実施(1件以上)
- ・R5年度末にネットワーク会議にて評価、今後の展開についての協議を行う

2.若年性認知症啓発リーフレットの関係機関への配布

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
若年性認知症ネットワーク会議			構成機関連絡調整 様式等準備	→	→		ネットワーク会議		→	個別支援会議		ネットワーク会議
若年性認知症啓発リーフレット配布	適宜配布	→										

<活動報告>

② 認知症の人への支援体制構築に向けた 関係機関との連携会議の開催

～『芦屋市若年性認知症ネットワーク会議』の立ち上げに向けて～

1. 芦屋市若年性ネットワーク会議の開催

- ・実施日: 令和5年10月30日(月)13:30~15:00
- ・開催場所: 芦屋市役所分庁舎 2階 大会議室1・2
- ・開催目的: ①各機関での若年性認知症に関する取り組みを共有し、理解を深める
②若年性認知症の方の個別支援の質を高めるための体制づくり
- ・参加機関: 兵庫医科大学病院認知症疾患医療センター
仁明会クリニック認知症疾患医療センター
ひょうご若年性認知症支援相談センター
芦屋市高齢介護課 地域福祉課 障がい福祉課
障がい者相談支援事業所 障がい者基幹相談支援センター
障がい者就業・生活支援センター 社会福祉協議会
市内高齢者生活支援センター(認知症地域支援推進員)
- ・参加者数: 19名

2. 若年性認知症啓発リーフレットの関係機関への配布



【結果/成果】

・各圏域の認知症地域支援推進員が近隣の病院や医院を回り、リーフレットを配布。年度を通して「若年性認知症支援」の周知・啓発を行った。

【結果/成果】

・今年度ははじめの一歩として会議機能1のシステム検討会議を実施。各機関の活動報告と意見交換、ネットワーク会議の今後の目標の共有や若年性認知症に関する相談受付後のフローについて意見交換、検討を行った。

【課題】

若年性認知症の方の個別ケースの把握が困難であり個別支援会議が未実施となった。来年度にかけて個別ケースの把握の仕組みについて検討が必要である。



【課題】

リーフレットは手に取ってもらえるが、相談にはつながっていない現状にある。次年度以降にはパンフレットの見直しも行いながら、早期相談できる体制づくりが必要である。

<計画>

③ 認知症に関する正しい知識の普及啓発

【背景】

認知症の理解を深め、当事者が住みやすい地域づくりを展開する必要がある。

【課題と目標】

認知症カフェとも連携しながら、広く市民に認知症について啓発する。

【対象者】 芦屋市民

【取組体制】 精道

【スケジュール】

7月 福祉フェアにおけるパネル展示
9月 アルツハイマーデーに合わせた企画
3月 ステップアップ講座企画

【具体的な取組み】

7/15福祉フェアにおいてパネル展示
(認知症カフェの案内も行う)

- 9月のアルツハイマーデーにおいて図書館(本館)にて認知症に関する書籍の展示・貸出・紹介を行う(あじさいの会にも協力要請)合わせて、認知症についての啓発や認知症相談センターの啓発もパネル展示ちらしを置かせてもらい啓発予定



- 9月のアルツハイマーデーにおいて認知症カフェ連絡会と協働でイベント等を企画
- ステップアップ講座企画
認知症の方に普段接している方の話を聞いていただけるよう企画
実際に認知症の方と接していただく機会やボランティア等につなげていったり、高齢者施設内での傾聴ボランティアなどの活動につないでいく。



<活動報告>

③ 認知症に関する正しい知識の普及啓発



【具体的な取組み】

- 7/15芦屋市保健福祉センター「福祉フェア」でのパネル展示（認知症カフェの案内も行う）



- 9月のアルツハイマーデー①
認知症カフェ連絡会と協働でカフェ紹介のポスターを作製し、市内の掲示板に掲示
期間:9月11日～9月22日



- 9月のアルツハイマーデー②
図書館(本館)にて、あじさいの会や図書館と連携し、認知症に関する書籍の展示・貸出・紹介を行った。
期間:9月4日～10月1日



- ステップアップ講座開催予定
日時:令和6年3月21日 (10:00～11:30)
場所:あしや喜楽苑
内容:認知症の方に普段接する方の話を聞き、認知症の方と接する高齢者施設内での実際のボランティア活動などにつなぐ。
- 結果
○福祉フェアや図書館でもパネル展示、また認知症カフェのポスターを市内の広報掲示板に貼るなど、広く啓発活動が行えた。図書館でも、認知症の本が多数貸し出しに出るなど効果が見られた。
○図書館でのパネル展示については「福祉に関係ない場所」を訪れた方にもチラシやパンフレットを手にしてもらえる機会となった。
- 課題
○今後は認知症について触れる機会の少ない方にも広く啓発できる機会や方法を考えていく必要がある。